

ホームページへの掲載		
済	7月 20日	掲載予定

岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 米澤 信雄

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

1 会の名称 学校評議委員会

2 会の構成 委員 恩田 秀比良 株式会社オング製作所 専務
川島 裕美 地域住民代表
佐々木 伸幸 育友会会長
堤 博幸 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長
南谷 清美 地域住民代表

(委員名は五十音順)

学校側	米澤 信雄 校長	森 保 教務主任
	沢井 和弘 副校長	宮浦 英夫 生徒指導主事
	土屋 義弘 事務部長	本田 悟志 進路指導主事
	高橋 信行 教頭	加藤 嘉彦 工業部長
	高木 喜弘 教頭	

3 会の目的 学校運営等について、学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会の開催 平成23年 7月1日(金) 13:15~15:30 岐阜工業高等学校 校長室
委員3人と学校側9人が出席

5 会の概要

主テーマ 工業高校に期待するもの、地域から学ぶべきこと

校長挨拶 昨年度最後の学校評議員の会は震災前の開催であった。多くの事が変化した。学校の震災対策がどうなっているのかが大きな問題となっている。濃尾地震が起こってから、120年が経過し、この地域にいつ地震が起こってもおかしくない状況である。本校は海拔9.248mである。10mを超える津波の対策を考えなければならないかというその必要はなく、海岸からの距離があるので、笠松に達するまでに引き波が起こると思われる。先の震災で学校として、対応に苦慮したことは①帰宅困難者、②地域住民の学校への受け入れの2点である。本校も検討が必要である。安全に関する視点で本日はアドバイスをお願いしたい。求人に関してはリーマンショックから立ち直りかけたと思ったら、震災で心配され、震災が一息ついたら、節電で工場の操業に影響が出ており、先行き不透明である。3つの日本一を目指すことは変わらないが、さらに生徒の姿で日本一を目指したい。そのための礼法指導を行った。

授業の見学

電子機械科： 3年課題研究

電子科： 3年課題研究

デザイン工学科： 3年実習

- ・暑い中で、一所懸命実習に取り組む姿が好印象だった。やっていることがとても楽しそうだった。自信を持ってやっているの、非常に良いので継続して行って欲しい。



学校の教育現状について 報告

教育実践 学校長より 部活動、ものづくり、資格取得等で実際に日本一になっている。ただし、個人の分野である。資格では経済大臣賞、部活ではレスリングがアジア大会出場、技能五輪に高校生として始めて出場等である。何とか学校全体として日本一を目指したい。

定時制 副校長より 定時制教育活動全般について
教務部 入試の状況、教育課程の改善点について
生徒指導部 挨拶指導、安全指導について
進路指導部 進路状況について
工業教育部 ものづくり・資格取得状況について
特別活動部 各種大会の記録について（教頭説明）
渉外部 育友会の事業について（教頭説明）



工業高校に期待するもの、地域から学ぶべきこと

- ・高校生は放っておけばどこまでも遊んでいて、自分をうまくコントロールできないので、大人がしっかりとみてあげて、切替をきちっとやってあげなければならない。
- ・学校の中だけでよい子にならないように、町中でも岐阜工の生徒はしっかりとしていると言われるようになって欲しい。
- ・自転車の二人乗りを見かけたり、交通マナーの悪い子もいるので対応をして欲しい。
- ・息子の同級生（本校卒業生）が6人ともはじめに就職したところで働いていて、素晴らしい。
- ・服装や挨拶は良くなっているが、交通安全指導もしっかりとお願いしたい。